

「ホットペッパーグルメ外食総研」によるタウン別・飲食動向調査 最新！ 外食&中食タウンランキング【関西圏版】

外食市場規模・中食市場規模ともに第1位は6年連続「梅田・大阪・北新地」
夫婦2人で飲食するのは「宝塚」、地元住民率が高いのは「加古川」

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健)の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」(https://www.hotpepper.jp/ggs/)では、首都圏・東海圏・関西圏の男女約1万人を対象に毎月実施している「外食市場調査」の結果を元に、2018年度のタウン別ランキングを発表します。

2018年度外食&中食タウンランキング【関西圏版】

■ 2018年度外食市場規模ランキングトップ10

タウン名	外食市場規模	前回順位
1位 梅田・大阪・北新地	1713億円	1位
2位 本町・心斎橋・淀屋橋	634億円	3位
3位 四条(烏丸)・河原町(祇園四条)	613億円	2位
4位 三ノ宮(三宮)・元町	528億円	4位
5位 なんば・大阪難波(日本橋)	482億円	5位
6位 天王寺(大阪阿倍野橋)	359億円	6位
7位 京橋・天満橋	319億円	7位
8位 尼崎・伊丹・塚口◎	270億円	10位
9位 京都駅周辺	260億円	8位
10位 西宮北口・甲子園◎	257億円	9位

■ 2018年度中食市場規模ランキングトップ10

タウン名	中食市場規模	前回順位
1位 梅田・大阪・北新地	205億円	1位
2位 西宮北口・甲子園◎	107億円	3位
3位 尼崎・伊丹・塚口◎	105億円	2位
4位 天王寺(大阪阿倍野橋)	104億円	4位
4位 四条(烏丸)・河原町(祇園四条)	104億円	4位
6位 江坂・千里中央◎	82億円	7位
7位 京橋・天満橋	77億円	8位
8位 三ノ宮(三宮)・元町	75億円	6位
9位 枚方市・寝屋川市・香里園・樟葉◎	73億円	9位
10位 堺東・堺	71億円	10位

※関西圏：32タウンを設定

※無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

※今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。タウンの名称は、外食件数が一定より上位の駅名を含める形で表示している。

「ホットペッパーグルメ外食総研」上席研究員・稲垣 昌宏が関西圏の外食動向を解説！



「ホットペッパーグルメ外食総研」
上席研究員 稲垣 昌宏

職場の飲み会が減り、居住地近辺での外食に勢い

外食数の多い駅をコア駅として関西圏で32タウンを設定、各タウンの特徴をランキング化しました。外食・中食の市場規模では「梅田・大阪・北新地」が、6年連続の1位。外食市場規模は2位の2倍以上となっています。外食には主に①居住地近辺 ②通勤、通学先やターミナル駅 ③お出かけ先、の3つの実施場所がありますが、近年は職場の飲み会が減り、家族での外食が増える傾向で、①居住地近辺、の外食が注目されます。夫婦2人での外食が多い「宝塚駅周辺」や地元住民の利用が多い「加古川駅周辺」などが、こうしたライフスタイルの変化を象徴するタウンになっています。

【本件に関するお問い合わせ先】

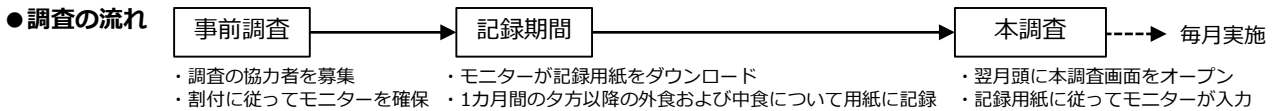
<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

調査概要

- **調査目的** 首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食の市場規模を把握することを目的に実施。また、主要タウン別の市場規模や、性年代別の外食・中食の実態を明らかにすることも目的とした。
- **調査対象** 関西圏の場合、圏域中心部からの鉄道距離が、おおむね80分圏の市区町村に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

調査対象	関西圏		
調査対象者の居住地の範囲	・大阪府全域 ・兵庫県（東北の一部除外） ・滋賀県の一部	・京都府（府北の一部除外）	・奈良県の一部

- **調査方法** インターネットによる調査



- **割付の設定** 本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、性別2区分×年代別5区分（20代/30代/40代/50代/60代）×地域8区分＝80区分で割付をおこなって回収した。
- **集計方法** 本調査結果は、H28人口推計に基づいて性別2区分×年代別5区分×地域8区分＝80区分でウェイトバック集計をおこなっている。また、年間集計にあたっては、個人単位集計の場合、毎月同数の人に調査した形に補正して集計している。外食単位集計、中食単位集計の場合、毎月の外食単位、中食単位のウェイトバック後のサンプルを合算して年間集計をおこなっている。

※前年度調査で使用した基準人口に県×性年代別のH27国勢調査人口→H28人口推計の増減率をあてて計算。

※2017年度の基準人口：H27国勢調査人口 ※基準人口の前年度比 関西圏：-0.3%

● サンプル数

本調査 （3圏域計）	実施期間	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2018年	2019年	2019年	2019年	2018年 度年間	2017年 度年間	
		4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度			
		18/5/1 ～5/10	18/6/1 ～6/6	18/7/2 ～7/10	18/8/1 ～8/7	18/8/31 ～9/11	18/10/1 ～10/10	18/11/1 ～11/7	18/11/3 0～12/7	19/1/7 ～1/16	19/2/1 ～2/7	19/3/1 ～3/7	19/4/1 ～4/9			
	配信数(件)	13,161	13,345	13,256	12,349	12,206	12,193	13,347	12,309	12,368	13,171	13,098	15,343			
	回収数(件)	10,347	10,410	10,422	9,084	9,906	9,592	9,915	9,743	9,675	10,423	10,131	12,089			
	回収率	78.6%	78.0%	78.6%	73.6%	81.2%	78.7%	74.3%	79.2%	78.2%	79.1%	77.3%	78.8%			
	有効回答数(件)	10,268	10,337	10,343	8,993	9,849	9,521	9,847	9,681	9,607	10,363	10,050	11,999			
集計数	個人単位 (居住圏域)	関西圏(件)	2,837	2,856	2,857	2,484	2,721	2,630	2,720	2,674	2,654	2,863	2,776	3,315	2,782	2,800

※集計サンプル数はウェイトバックによる補正後の件数 ※年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数
※個人単位の年間集計のサンプル数は、毎月同数の人に調査した形に補正後の件数

本調査における定義・設定等

● 本調査での「外食」は、夕方以降の食事について、お店で食事した場合を対象

- ・飲酒のみ、喫茶のみの場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回外食した場合、1日あたり2回まで（2軒目まで）の外食を含んでいる。

● 本調査での「中食」は、夕方以降の食事について、外で買って来たものを食べた、出前や宅配を利用して食べた場合を対象

- ・食事の一部（おかずのみ等）を買ってきて食べた場合も含まれる。
- ・夕方以降、複数回中食した場合、1日あたり2回まで（購入金額の上位2位まで）の中食を含んでいる。

● 対象範囲の設定

- ・消費地の範囲は、圏域の居住者が圏域の対象府県内でおこなった外食や中食（ただし購入した場所）を対象としており、圏域外（圏域外の都道府県や海外）でおこなった外食や中食は含んでいない。ただし、圏域内への旅行・出張は含まれる。

対象範囲	関西圏
消費地の対象範囲	・大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・滋賀県

● タウンの設定

- ・昨年度1年間の調査結果から、圏域ごとに外食件数の多い上位70駅を中心として、都心部（大阪市内、神戸市内、京都市内）は半径2km、周辺部は半径4kmの範囲に含まれる駅を合わせて、1つのタウンとして設定した。
- ・複数の円が重なる位置にある駅や円のごく周辺にある駅はより関係性が強いコア駅のタウンに振り分け、各タウンの範囲は重複しない。
- ・関西圏は、32タウンが設定された。 <新> は新しく設定されたタウン。
今年度、名称が変わったタウンがあるが、タウンに含まれる駅は変わっていない。ただし、直近1年間に新設された駅は、該当するタウンがあれば追加している。無印：半径2kmのタウン、◎：半径4kmのタウン

●半径2kmのタウン	●半径2kmのタウン(続き)	●半径2kmのタウン(続き)	●半径4kmのタウン(続き)	●半径4kmのタウン(続き)
1 梅田・大阪・北新地	8 十三	30 京都駅周辺	16 石橋(川西能勢口)◎	23 西宮北口・甲子園◎
2 なんば・大阪難波(日本橋)	9 大正・弁天町・ユニバーサルシティ	31 四条(烏丸)・河原町(祇園四条)	17 江坂・千里中央◎	27 明石(西明石)◎
3 天王寺(大阪阿倍野橋)	10 長居(あびこ) <新>	●半径4kmのタウン	18 茨木市・茨木◎	28 加古川駅周辺◎
4 京橋・天満橋	11 堺東・堺	12 布施◎	19 高槻・高槻市◎	29 姫路駅周辺◎
5 鶴橋・大阪上本町	24 六甲道(住吉)	13 近鉄八尾◎	20 枚方市・寝屋川市・香里園・樟葉◎	32 奈良・近鉄奈良(新大宮)◎
6 本町・心斎橋・淀屋橋	25 三ノ宮(三宮)・元町	14 金剛◎	21 宝塚駅周辺◎	
7 新大阪(西中島南方)	26 神戸駅周辺	15 大日(守口)◎	22 尼崎・伊丹・塚口◎	

2018年度外食タウンランキングトップ5【関西圏版】

■外食市場規模の前年伸び率が高いタウン

順位	タウン名	外食市場規模(億円)	前年度比
1位	近鉄八尾◎	77	119.1%
2位	布施◎	116	118.6%
3位	明石(西明石)◎	115	117.2%
4位	本町・心齋橋・淀屋橋	634	113.4%
5位	奈良・近鉄奈良(新大宮)◎	146	113.1%

■外食単価が高いタウン

順位	タウン名	外食単価(円)	前年度比	前回順位
1位	本町・心齋橋・淀屋橋	3,800	107.3%	2位
2位	四条(烏丸)・河原町(祇園四条)	3,703	99.1%	1位
3位	梅田・大阪・北新地	3,324	97.9%	3位
4位	三ノ宮(三宮)・元町	3,253	99.6%	4位
5位	京都駅周辺	3,209	102.9%	5位

■外食単価が低いタウン

順位	タウン名	外食単価(円)	前年度比	前回順位
1位	大日(守口)◎	1,872	90.1%	4位
2位	長居(あびこ)	1,976	105.7%	-
3位	近鉄八尾◎	2,047	98.9%	2位
4位	金剛◎	2,059	99.2%	3位
5位	大正・弁天町・ユニバーサルシティ	2,101	93.8%	11位

■夫婦2人での利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	宝塚駅周辺◎	31.9%	24.8%	1位
2位	金剛◎	26.9%	23.7%	2位
3位	高槻・高槻市◎	24.0%	17.3%	9位
4位	茨木市・茨木◎	22.2%	22.2%	3位
5位	明石(西明石)◎	19.7%	18.3%	5位

■地元住民の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	加古川駅周辺◎	68.2%	66.4%	3位
2位	枚方市・寝屋川市・香里園・樟葉◎	67.3%	68.8%	1位
3位	高槻・高槻市◎	66.0%	64.3%	4位
4位	姫路駅周辺◎	63.1%	68.6%	2位
5位	布施◎	61.8%	61.3%	5位
5位	尼崎・伊丹・塚口◎	61.8%	60.8%	6位

※地元住民が利用するシェア：延べ外食回数のうち、当該タウンのコア駅(外食数が一定以上上位の駅)が所在する市区町村と同じ市区町村に住む人によっておこなわれた外食回数の割合

外食市場規模の伸び率トップは「近鉄八尾」。外食単価が前年比98.9%と微減したが、延べ外食回数が前年比120.4%と大きく伸びたため、市場規模が前年比119.1%となった。八尾市の人口自体は減少傾向にあるが、世帯数はここ数年逆に増加しており、単身世帯の増加が外食機会数の増加につながっていると考えられる。20・50代女性、30・50代男性が市場の伸びをけん引しており、居酒屋、焼肉・ステーキ業態等で市場規模が伸びた。

外食単価の高いタウンは、前年から1位と2位が入れ替わった。2位の「四条(烏丸)・河原町(祇園四条)」は調査開始以来、外食単価が1位であったが、本年度は単価が前年比マイナスとなり2位に後退。替わって、5年連続単価2位の「本町・心齋橋・淀屋橋」が関西圏では初めて単価が3,800円を記録したタウンとなり、1位を奪取。同タウンは飲酒を伴う外食のシェアが1位で、「酒の力」が単価アップに寄与していそうだ。

外食単価の低さは、飲酒の有無との相関が強く、飲酒率の低さで「大日(守口)」は3位、「近鉄八尾」は2位、「金剛」は4位などとなっている。「大日(守口)」は大規模駐車場を有するショッピングモールのフードコートなどが人気で、休日に車でショッピングモールに出かけての外食が多いため、飲酒を伴うことが少なく、単価が低く抑えられていると考えられる。

外食相手で、夫婦2人での利用シェアの高いタウン1位は「宝塚駅周辺」であった。前年も1位だが、シェアは大きく伸びて3割台となった。宝塚市は、人口はゆるやかな減少局面にありつつ、世帯数は増加している。もともと子どもが独立した後の夫婦二世帯が多い地域で、最近では若年人口の減少で夫婦二世帯の存在感が外食市場において強くなってきている。また、働き方改革で帰宅時間が早まっていることも夫婦での外食には追い風だ。

タウンの在住者による飲食シェアの多い街1位は「加古川駅周辺」。加古川市の居住者による飲食が68.2%を占める。明石と姫路にはさまれ、神戸市にも通勤可能な環境だが、飲食は地元志向が強いようで、前回3位からスコアを伸ばして1位となった。名物の「かつめし」をはじめ、「恵幸川鍋」「加古川パスタ」など、市が食コンテンツの開発や支援に力を入れており、食に対しての行政の注力が、居住者の地元での外食啓蒙につながっている可能性もありそうだ。

2018年度外食タウンランキングトップ5【関西圏版】

■「居酒屋（焼鳥、串焼き、串揚げ等含む）」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	十三	28.4%	28.1%	1位
2位	本町・心斎橋・淀屋橋	28.1%	26.3%	3位
3位	京橋・天満橋	27.5%	26.7%	2位
4位	新大阪（西中島南方）	26.7%	22.7%	7位
5位	梅田・大阪・北新地	25.0%	22.4%	8位
5位	なんば・大阪難波（日本橋）	25.0%	24.0%	4位

関西圏“居酒屋の聖地”は2年連続して「十三」。タウンに含まれる「中津」はマンションが増えて人口が流入している可能性がある。また隣接する「西中島」ではIT系や不動産関係の企業が増加していることから、男性の利用が多い業態である居酒屋にとっては、追い風の環境にあるようだ。「新大阪（西中島南方）」も上記同様の理由からか、居酒屋の利用シェアが前年比で増加し、4位にランクインした。

■「焼肉、ステーキ、ハンバーグ等の専門店」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	鶴橋・大阪上本町	14.3%	15.0%	1位
2位	茨木市・茨木◎	10.9%	9.1%	5位
3位	姫路駅周辺◎	10.1%	8.4%	9位
4位	尼崎・伊丹・塚口◎	9.6%	9.8%	2位
4位	加古川駅周辺◎	9.6%	8.9%	7位

関西で焼肉の街といえば真っ先に名前が挙がる鶴橋を含む「鶴橋・大阪上本町」が2位を引き離しての1位タウン。本調査では圏域外からの観光客や外国人による飲食は調査対象外のため、実際にはさらに焼肉店の利用シェアは高い可能性もある。昨年よりスコアがやや落ちているが、近隣に焼肉以外の業態の出店が進んでおり、居住者は観光客であふれる焼肉店からシフトしているという説もある。

■「お好み焼き、鉄板焼き等の専門店」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	明石（西明石）◎	5.1%	5.7%	1位
2位	加古川駅周辺◎	4.3%	2.7%	15位
3位	鶴橋・大阪上本町	4.2%	5.1%	2位
4位	天王寺（大阪阿倍野橋）	4.0%	4.0%	3位
4位	姫路駅周辺◎	4.0%	3.5%	7位

“明石焼き”で有名な「明石（西明石）」が2年連続で1位。上記の鶴橋での焼肉同様、観光客の外食を考慮すると実際のシェアはさらに高い可能性がある。多数の“明石焼き”の店が魚の棚商店街にある他、お好み焼きも地元住民に人気の有名店がある。前年よりシェアが微減しているが、駅前の再開発で、多様な飲食店が利用可能になり、人口の増加もあって各業態の利用が分散した可能性がある。

■「中華料理店（ラーメン専門店を除く）」の利用シェアが高いタウン

順位	タウン名	シェア	前回値	前回順位
1位	長居（あびこ）	13.3%	16.2%	-
2位	十三	12.8%	9.1%	4位
3位	石橋（川西能勢口）◎	10.2%	8.0%	7位
4位	三ノ宮（三宮）・元町	9.1%	9.7%	1位
5位	鶴橋・大阪上本町	8.9%	7.8%	9位

前年度の延べ外食数で上位に入り、今回タウン設定された「長居（あびこ）」が中華料理店の利用シェアが高いタウン1位。通勤・通学に便利な立地だが、長居スタジアムでスポーツやイベントがあるとき以外、飲食店は居住者の利用がメイン。しかも、あらたまった外食の場合、近隣に難波や天王寺といった外食のバラエティーに富んだ地域があるため、逆に、日常的な外食の代表である中華料理店のシェアが高いのではないかと考えられる。

■インターネット予約のシェアが高いタウン

順位	タウン名	インターネット予約シェア	前回値	前回順位
1位	梅田・大阪・北新地	13.9%	12.1%	1位
2位	三ノ宮（三宮）・元町	12.9%	9.9%	4位
3位	四条（烏丸）・河原町（祇園四条）	12.7%	10.7%	3位
4位	加古川駅周辺◎	11.8%	8.0%	10位
5位	京橋・天満橋	11.0%	8.3%	8位

インターネット予約の進んでいるタウン1位は「梅田・大阪・北新地」。関西圏平均9.3%のところ、予約シェアが13.9%あった。もともと、予約しての飲食が多いタウン（関西圏平均29.2%に対し該当タウンは36.0%）だが、特に男性20～40代のインターネット予約が多く、フレンチ・イタリアン料理店、アジア料理店、すき焼き、しゃぶしゃぶ等の専門店等のインターネット予約が盛んだ。